

ジュニアたち憧れの大曲 『チャイ5』どなる!?



チャイコフスキー 交響曲第5番

- モーツァルト「魔笛」序曲
- モーツァルト交響曲第35番「ハフナー」

指揮: 阿部真也

2018年6月10日(日)

開場13:30 開演14:00

横浜市都筑公会堂

- 【主催】横浜ゾリステン
- 【協力】鎌倉ジュニアオーケストラ
- 【協賛】スミノ楽器
- 【後援】横浜観光コンベンション・ビューロー
鎌倉エフエム放送株式会社

第5回 横浜ゾリステンと ジュニアたちの協演



黒服は横浜ゾリステンメンバー、白服はジュニアたち。

ご挨拶



本日はお忙しいところご来場いただきありがとうございます。鎌倉ジュニアオーケストラ(以下KJO)は35年前に「音楽の好きな子どもなら、楽器に触った事がなくても、楽譜が読めなくても誰でも入れるオーケストラ」として鎌倉深沢地域に誕生しました。以来、各パートのトレーナーによる指導のもと、年に数回のコンサートを重ねながら今日まで歩んできました。現在、小学3年生から高校3年生まで80名前後の団員が練習に励んでいます。

6年前、プロオーケストラ「横浜ゾリステン」よりKJOの中高校生の希望者を対象に共演しないかとのお話を頂きました。もちろん即座に賛成し、この機会を我々だけでなく、一般のジュニア達へも拡げては、と参加を呼びかけて始まったのがこの企画です。

曲目は、1回目がドボルザーク交響曲第9番「新世界より」、2回目がチャイコフスキー交響曲第4番、3回目がベートーヴェン交響曲第5番「運命」、4回目がシューマン交響曲第一番「春」、そして今回はチャイコフスキー交響曲第5番です。どれも年齢幅の広いKJOでは演奏が困難な曲ですが、中高校生達にとってはまさに成長の好機です。今回は27名ものジュニア・ユースが参加。大曲に取り組む彼らの目の輝きを見ると、まさに今、成長していることを実感します。このような貴重な機会を与え、彼らを熱心に指導して下さる横浜ゾリステンの皆様には心から感謝しています。

今日の演奏はお聞き苦しい所があると思いますが、子どもたちなりに真剣に取り組んできた事をご報告して、ご容赦頂ければ幸に存じます。

鎌倉ジュニアオーケストラ代表 田辺四郎



本日はご多忙の折、ご来場くださり誠にありがとうございます。横浜ゾリステンを代表し厚く御礼申し上げます。横浜ゾリステンは2009年に結成されたプロフェッショナル・オーケストラです。同年11月にベートーヴェン「運命」でデビュー以降、すでに公演活動を17回重ね、常にアンサンブル重視の演奏活動を続けています。

こうした中、2012年12月に鎌倉ジュニアオーケストラ主催による「横浜ゾリステンとジュニアの協演」という機会を得て以降今回で5回目を迎えます。当初ジュニアのメンバーとして参加頂いた方が、今回は横浜ゾリステンメンバーとして出演するようにもなりました。時間が経つのは早いと思いつつ、我々の活動が僅かながらでも音楽家育成にも貢献できていることに喜びを感じています。

さて、本日はモーツァルト：序曲「魔笛」、チャイコフスキー：交響曲第5番をジュニアの方々と協演いたします。また横浜ゾリステンメンバーによりモーツァルト：交響曲35番「ハフナー」を演奏いたします。ジュニアの皆様が私ども横浜ゾリステンと協演することで、持てる力を存分に発揮されることでしょう。我々と共に創り上げる音楽は、きっと皆様方に感動をお届けできるものと確信しています。

横浜ゾリステン事務局長 住田英二



プログラム

「魔笛」序曲

モーツァルト

交響曲第35番「ハフナー」

モーツァルト

～ 休憩 ☕ ～

交響曲第5番

チャイコフスキー

鎌倉ジュニアオーケストラ

第35回 定期演奏会

【日時】 2018年8月23日(木) 14:00 開演

【場所】 鎌倉芸術館 大ホール

【演目】 組曲「くるみ割り人形」(チャイコフスキー作曲)
ナブッコ序曲(ヴェルディ作曲)ほか



指 揮 者・コ ン サ ー ト ミ ス ト レ ス の ご 紹 介



阿部真也 (あべしんや)

指 揮 者 ヴ ァ イ オ リ ン

幼少よりピアノを、13歳よりヴァイオリンを始める。札幌インターナショナルスクールを経て、17歳で渡米し、サンフランシスコ音楽院ヴァイオリン、ヴィオラ科修了。2005年より拠点をドレスデンに移しオーケストラ奏者・指揮者として研鑽を積み、現在に至る。2006年コルドバ国際指揮者コンクール入賞。2007年よりエドワードサイド音楽院ベツレヘム校ヴァイオリン、ヴィオラ、室内楽科教授に就任。現在は同音楽院客員教授、客演指揮者として籍を置いている。東京を中心に2007年より「阿部真也と仲間達室内楽シリーズ」を主催。2010年よりロームミュージックファンデーションより在外研究生として選ばれ、国内外で一流演奏家、オーケストラとの共演、研鑽を重ねる。2011年「パレスチナ音楽日記」を出版。

CHANELピグマリオン室内楽シリーズのヴィオラ奏者に選ばれる。今までアスペン、アフィニス、ロストロポービッチ、ナント・東京ラフォーレジュルネ音楽祭等に出演。現在、横浜シンフォニッタ ヴァイオリン、ヴィオラ奏者、「コバケンとその仲間たちプレミアムオーケストラ」首席奏者、国内外で客演首席奏者、指揮者を務めるほか、冬季、夏季室内楽講習会、Ebb & Flow Art近現代音楽祭(マウイ)ヴィオラ講師、ラインハイト室内楽アカデミー、音の輪音楽教室などで後進の指導にも力を注いでいる。



田島華乃 (たじまかの)

コ ン サ ー ト ミ ス ト レ ス

1986年2月生まれ。3歳半よりピアノ、4歳よりヴァイオリンを始める。桐朋女子高等学校音楽科(男女共学)を経て、桐朋学園大学音楽学部を卒業。ザルツブルク音楽祭で、E・シュミューダークラス受講。ファイナルコンサートに出演。別府アルゲリッチ音楽祭に出演。

第44回小野アンナ記念会に出演。全日本芸術音楽コンクール第二位。室内楽や都内オーケストラで演奏活動中。音の家otonoya代表(<http://otonoya.jimdo.com/>)

横 浜 ゾ リ ス テ ン

首都圏在住の音楽家により2009年結成された室内オーケストラ。約40名の卓越した演奏技術と高度なアンサンブルによって、新たなクラシック音楽の地平を目指す。ゾリステンとはSolist(ソリスト)の複数形で、自主的・独創的な音楽家の集まりのこと。



プログラム・ノート

モーツァルト「魔笛」序曲

ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルトが1791年に作曲したジグムント・ジューピール(歌芝居、現在では一般にオペラ的一种として分類されています)。モーツァルトが生涯の最後に完成させたオペラです。(モーツァルトはこの魔笛の初演(1791年9月30日)の約2か月後に35歳の若さで亡くなります。)今回はそのオペラの序曲(オープニング曲)をお聴きいただきます。ぜひ一度オペラの魔笛もご覧になってください。

『第1幕』

時は古代、舞台はエジプトで架空の世界。大蛇に追われる王子タミーノが3人のレディーに救われるところから始まります。彼女たちが仕える夜の女王は、「ザラストロが自分の娘パミーナを誘拐した」とタミーノに話し娘を助けるよう依頼します。タミーノは女王の娘パミーナの絵姿を見せられ一目惚れし「魔法の笛」を受け取り、鳥捕男パパゲーノとザラストロの神殿に行くことにします。タミーノは3人の子供に案内されザラストロの神殿に着くも、本当の悪者はザラストロではなく夜の女王だと聞かされます。実はザラストロは悪人ではなく偉大な祭司で、世界征服を企む夜の女王の邪悪な野望の犠牲とならないようにパミーナを保護していたのです。パミーナとタミーノは初めて対面し、お互い惹かれあいます。しかしザラストロの命によりいくつかの試練を与えられることになります。

『第2幕』

タミーノとパミーナは数々の試練を乗り越えていきます。しかしタミーノが試練のために口をきいてくれないのを7愛が冷めてしまったと勘違いしたパミーナは自殺しようとする。しかし3人の子供に救われタミーノの愛を知ります。お互いの愛を知ったタミーノとパミーナは2人でさらなる試練に立ち向かいます。魔法の笛が奏でる音楽と強く深い愛が不安を打ち消し2人は火と水の試練に打ち勝ちます。一方パパゲーノも夢がかないます。理想の女性パパゲーナと出会い、結ばれ、たくさんの子供が生まれます。皆の幸せが面白くない夜の女王は3人のレディーと部下のモノスタスを従えザラストロを襲いますが、あえなく失敗し滅ぼされてしまいます。ザラストロの勝利で歓喜のうちに幕となります。

モーツァルト 交響曲第35番「ハフナー」ニ長調 K.385

題名の「ハフナー」とは、ザルツブルクの元市長の息子であり、モーツァルト自身にとって幼なじみであったジークムント・ハフナーⅡ世の姓に由来しています。モーツァルトがハフナー家のために作曲した楽曲は2つあり、ともにセレナード(もともと古代ギリシアでは、夜に野外で恋人を褒め称えるために歌われていた音楽。のちに親しい相手やその他の称賛すべき人物のために、夕方しばしば屋外で演奏される音楽となった)でした。1曲目は1776年作曲されたセレナード第7番K.250(K.248b)で、現在『ハフナー・セレナード』と呼ばれ親しまれています。2曲目のセレナードはその6年後の1782年7月末に作曲されました。ハフナー家が貴族になったことへの祝賀用のセレナードだったようです。その後モーツァルトは1783年3月23日の予約演奏会のために、以前、作曲したハフナー一家への第2セレナードを交響曲に編曲しました。楽器編成にセレナードにはなかった第1と第4楽章にフルートとクラリネットを加えています。

チャイコフスキー 交響曲第5番 ホ短調 作品64

1888年5月に西欧演奏旅行から帰還したチャイコフスキーは新たな交響曲を手掛けます。

この作品のスケッチには「運命の前での完全な服従」「不満、疑い、不平、非難」「信仰の抱擁に身を委ねる…」「『慰め』『ひとすじの光明』『いや、希望はない』」といった言葉が残されており、新たな作品を暗示しています。同じ年の8月に曲は完成します。

第1楽章の序奏部で冒頭のクラリネットによって演奏される重く暗い表情の主要主題(運命の主題)は、全楽章で重要な役割を果たすことになる大切なメロディーです。全楽章でこの冒頭の動機(運命の主題)が現れ、運命への絶対服従から勝利へと続く流れは、初演以降ずっと世界中で好まれ、演奏され続けています。以前チャイコフスキーは1878年の手紙で「私の交響曲は、もちろん、標題音楽的ですが、その標題は言葉では決して表せないようなものです」と書いています。チャイコフスキーはどんな思いをこの曲に込めたのでしょうか。彼は3大バレエ(白鳥の湖・くるみ割り人形・眠れる森の美女)のそれぞれの中で有名なワルツを作っていますが、この交響曲第5番の第3楽章のワルツもそれと並ぶような美しい曲です。

チャイコフスキーは、どの作曲家よりもモーツァルトを愛しており、この第3楽章のワルツはモーツァルトのような優雅さをもっています。今回の演奏会ではモーツァルトの作品も演奏されます。ぜひ二人の作曲家の音楽を存分に味わってみてください。

横浜ゾリステンメンバーに聞きました！ ジュニアを指導して感じたことは？



ヴァイオリン指導
田島華乃

多角的な耳を養う
練習を積むことで
アンサンブルの深みへ。

初回の練習では、譜面上の音符を弾くことにそれぞれが集中し、「自分はうまく弾けたのか弾けなかったのか」というところに興味があったようでした。

しかし楽譜から離れて『大きな古時計』で弓使いによる表現の仕方や、パートでまとまらず部屋全体にバラバラに広がって音を出す練習を重ねたことで、個としての自分の音、全体の中で求められている自分の音、自分以外の音という、多角的な耳をもって音を出せるようになったと思います。これを「アンテナの多さ」と表現しましたが、このアンテナたちにより、アンサンブルの深みが増してきたように感じています。

練習時に、「横浜ゾリステンは誰かについていくスタンスではなく、それぞれが意思を持って積極的にアンサンブルをしようという人の集まりです。今、私は聴いているだけにするので、みんなで合図を出し合って最初の音を出してみてください」と言ったら、みんな楽器を構えたまま微動だにせず、沈黙の20秒の後にクスクスと笑いが出た時がありました。あの時の目線のやりとりと、固まった空気。仕切り直して呼吸を合わせた後に出てきた素晴らしい音を私は忘れることができません。



コントラバス指導
早川珠実

オケがひとつになる瞬間、
その中に自分自身がいる
喜びを感じてほしい。

初顔合わせの日、少し緊張した面もちで恐る恐る遠慮がちに音を出していたジュニアたちが、今では楽器を構えた時の顔つきも音色

も変わってきました。前向きに伸び伸びと、そして真剣に練習時間を過ごしています。曲を理解できた時の嬉しそうな表情を見ていると「あんなに無垢に音楽と向き合ったのは、いつか最後だっただろう？」と考えさせられます。今回、指導者という立場で参加していますが「指導」というより「一緒に音楽を作る、一緒に奏でる」という感覚が、私の中で強くあります。その「一緒に」のために、私の引き出しの中を見てもらったり、おすそ分けしたりするのですが、限られた時間の中では難しい。言葉にしなければ伝わらないこと、逆に言葉では伝わりにくいこと、アンサンブルしながらコミュニケーションを取るとのこと…。皆とイメージを共有できるよう私自身が常識にとらわれないように、柔軟に対応するように意識しています。

コントラバスとしては第一回以来のジュニアの参加者があり、嬉しく思っています。「オーケストラ全体がひとつになるあの瞬間」そして「その中に自分自身がいる喜び」を感じてほしい。短く濃い時間を一緒に過ごした「共演者」との本番、とても楽しみにしています。



オーボエ指導
中山達也

オーケストラならではの
音楽の魅力、オーボエの魅力
全身で感じてほしい。

今回の参加者は、オーケストラでの演奏が初めてであったり、また初めて挑戦する曲に苦戦していますが、徐々に曲を知り演奏や音色にも変化が出てきました。

分奏では緩急の変化についていけずバラバラになりながらも必死にくりつき、オケに、曲についていこうという意志が高まって来ているように感じます。ただ、オケが初めてと言うことで、音色の作り方や合わせ方、そもそも演奏する曲も初めて触れるような部分があり、短時間で必要な技術を高めつつ曲を完成させるのはとても難しいことです。同時に大作曲家の名曲を題材に指導できることはオーボエの魅力を感じることができ、難易度が高い中でも「音楽」が出来るのがとても素晴らしいと感じています。オーボエの魅力はクラシックにあり、そしてオーケストラにあり、と常々思っています。私自身吹奏楽に携わることがとても多いのですが、そこでは伝えきれない音楽の魅力を感じてほしいと思います。これをきっかけにオーケストラの曲や演奏会を聴く機会を増やしてもらえたら嬉しい限りです。初回のレッスンではリードの問題が起きたり、楽器の不調があったり…と道具に苦労するオーボエらしいスタートになりました。そうした難しさ(面倒くささ?)も含めて、オーボエはやりがいがあります(笑)



トランペット指導
王張

教わるのが最も難しく、
しかし一番大切なのが「空気感」
ともに吹くことで伝えたい。

練習を始めた当初はただ流れて吹いていた基礎練習も、少しずつですが、鳴っている音と鳴っていない音の違いが分かるようになってきたように思います。

振り返れば、私自身もこれまで多くの先生や先輩方から色々なことを教わり、指摘されてきましたが、教わることと伝えるのが一番難しいと感じるのが、「空気感」でしょうか。「息を合わせて」とか「もっと聞いて」と言われても、本人がその違和感に気づかなければ意味がありません。一緒に吹く中でそこを少しでも伝えられたらと思います。

普段は客席で聴くプロの奏者の演奏を、隣同士で聴く機会というのはとても貴重な体験です。息づかいやタイミングの取り方、ステージ上で聞こえる音、すべてが参加してみないとわからないこと。一人一人の力は小さくとも、オーケストラの一員として壮大な音楽の渦を楽しんでもらえればと思います。

この企画でこれまで最も印象深かったのは、生徒がゲネプロまでどうしてもタイミングが合わず苦しんでいた箇所が、本番でバッチリ迷いなく吹けた瞬間ですね。心の中でガッツポーズしました。

ジュニア・ユース参加者に 4つの質問をぶつけてみました！

質問 内容

- ① (前回参加者は) 前回の演奏会の感想と今回への思いや目標を聞かせてください。
(初参加者は) どうしてソリステン企画に参加しようと思ったのですか？
- ② ソリステンの先生方の指導を通して何を感じましたか？
- ③ ぼんやりとでもいいから、未来に思い描いていることを教えてください。
- ④ あなたにとって、オーケストラの魅力は何ですか？

チェロ

松前 芽依 (高1) 楽器歴 6年

- ① 前回の参加もすごく楽しく、良い経験になりました。今回は曲が難しかったですが、本番で良い演奏ができるように頑張ります。
- ② 普段のジュニオケの練習とは違い、また新たな弾き方を教えていただいたり、アンサンブルの大切さがわかったりするレッスンをしていただいて、自分の中で成長できる良い機会になりました。
- ③ 音楽をなんらかの形で続けられたらいいなと思っています。
- ④ いろんな人と音楽を共有できることです。

永田 歌歩 (高3) 楽器歴 9年

- ① 毎回の練習が楽しみ過ぎて、ずっと生きがいにしていました。
- ② アンサンブルの意味を、言葉と感覚で理解することができる、本当に濃い時間を作って下さいました。
- ③好きなことを仕事にしたいです。
- ④ 大好きだけど、常に全神経を使って音を出すのでちょっと疲れます。



フルート

田名部 葉水 (高3) 楽器歴 12年

- ① ずっと前からソリステンに参加したくても学校や部活が忙しく出来ませんでした。今年で鎌倉ジュニアオーケストラを卒団ということもあり、たくさん楽器を吹きたくて参加させていただきました。
- ② パートの先生、指揮者の方にも音楽の表現など深いところまで指導してくださり、また、はじめて会う楽器仲間との練習でたくさんの刺激を受けました。
- ③ 高校卒業後の進学先は別の分野ですが、何かの形で音楽を続けて行きたいなと思います。
- ④ 小学生の頃からオーケストラで演奏していたこともあって大好きで、異なるパートが合わさって1つの曲を作り上げていくところに魅力を感じています。

松崎 健一郎 (高3) 楽器歴 9年

- ① 前は初参加でした。ずっと楽しみにしていたので、参加できて嬉しかったです。今回はチャイ5で1stを吹くのでワクワクバクバクです。
- ② どんな楽器と一緒に演奏するのかなどを考えて練習することは、難しいが絶対に必要なことだと感じた。
- ③ 一生、音楽を楽しめる環境にいたいです。
- ④ 聴く人だけでなく、演奏する側にとってもエンターテインメント。



富樫 利香 (高3) 楽器歴 9年

- ① 友達に誘われて楽しそうだったので。
- ② いつも演奏を新しくしてくれる感じがします。
- ③ 音楽に関わって生きていきたいです。
- ④ 沢山の刺激をもらえて楽しいです！

質問 内容

- ① (前回参加者は)前回の演奏会の感想と今回への思いや目標を聞かせてください。(初参加者は)どうしてゾリステン企画に参加しようと思ったのですか?

- ② ゾリステンの先生方の指導を通して何を感じましたか?
- ③ ぼんやりとでもいいから、未来に思い描いていることを教えてください。
- ④ あなたにとって、オーケストラの魅力は何ですか?

ヴァイオリン

古屋 光優 (中1) 楽器歴 7年 (うち2年休み)

- ① 小学校4年生の時に初めて聴きに行き、私も中学生になったら、ぜひ参加したいなあ〜、と思っていたため、参加させていただきました。
- ② 先生方はとても優しく、ご指導や表現はとても分かりやすく、楽しいです!
- ③ 音楽を楽しみながら、音楽等を通して、世界中のいろいろな境遇にある方を笑顔にできればと思います。
- ④ なくてはならない、大好きで、大切な場所です。

大西 ひまり (高1) 楽器歴 6年

- ① 前回この企画に参加させて頂いたことで、「音楽」の捉え方、「演奏」に対する意識の持ち様がガラッと変わりました。そして、今回の本番に向け行って頂いたレッスンでは、数え切れないほどの新たな感覚を味わうことができました。
- ② ゾリステンの先生方は、「技術」においてはもちろん、「音楽」を通して「生き方」をも教えて下さる方々です。音楽の大先輩としても人生の大先輩としても私たちに暖かく接して下さいます。
- ③ 沢山の方々の「幸せの瞬間」に携わる事ができたらと考えています。
- ④ 音楽を奏でる「喜び」や、聴いて下さる方々のいる「喜び」を通し、「自分自身」を大きく成長させてくれるものだと考えています。

中島 愛 (高3) 楽器歴 3年

- ① 初参加です。高校生活最後の思い出に、憧れの企画に今年こそ! と思い、応募しました。
- ② プロの音楽家の方は、個性的な方が多いな、と思います。キャラ立ちがはっきりしていっちゃいます。
- ③ 公務員になりたいです。
- ④ 漸近線。

山賀 千穂 (大2) 楽器歴 16年

- ① 今回初参加です。鎌倉ジュニアの方に誘っていただけのご縁があったので、参加しました。
- ② 皆さんがいろいろな考え方を弾いていることに、とても圧倒されました。自分の演奏に対する考えも、もっと大事にしようと思いました。
- ③ いろいろな人と演奏がしたいです。メンバーが変わるたびに音楽が変わることを楽しみたいです。
- ④ アンサンブルをすることの楽しさを感じられる場所。

伊勢 静 (中2) 楽器歴 3年

- ① 私が小学生の時に兄がこのオーケストラで演奏する姿を見て、私も中学生になったら参加したいと思ったからです。今回参加することができてとてもうれしいです。
- ② 1曲1曲たくさんのアドバイスをいただきました。また、曲以外のことも教えていただき、毎回のレッスンがとても楽しかったです。
- ③ 何らかの形で、音楽やオーケストラを続けたいと思います。
- ④ いろいろな人と協力し、ひとつのものを作り上げる素晴らしいもの。

南川 日佳理 (高1) 楽器歴 6年

- ① 前は1stで特に高い音が難しく、ついていくのがやっとなりで余裕がありませんでした。今回は2ndを頑張って練習しています。2ndは1stの音を支えるところが多いため、周りの音をよく聴いてたくさん練習を重ねて良い演奏ができたらと思います。
- ② 普段のジュニアオーケストラの練習とはだいぶ違い、身体で覚えるような感覚的な指導が面白く、とても勉強になりました。
- ③ どんな形になるかわかりませんが、ずっと音楽を続けていきたいです。
- ④ 演奏者同士息を合わせて一つの曲を作り上げるところが、すごく達成感があります。

田中 ひかり (高2) 楽器歴 10年

- ① プロのオーケストラと共演できる機会はなかなかないですし、この経験を通じて、自分の演奏技術を向上させることのみでなく、プロの音楽家の感性や価値観に直接触れたいと思い、参加しました。
- ② それぞれとても素晴らしい個性の先生方から指導していただき、毎週のレッスンが楽しみでした。オーケストラの中の一人である前に、自分の意思を持って積極的に演奏する、ということ学びました。
- ③ 好きな曲を好きなように表現して、人の心に響くような演奏ができるようになりたいです。
- ④ まわりの人を見て聴いて感じとって、コミュニケーションしながらひとつの音楽を創っていくので大変な分、達成感も大きく、とても面白いです。



伊勢 巧 (大1)

楽器歴 7年

- ① プロの方々の演奏を間近に聴きつつ演奏することがとても楽しかったです。今回は楽しみつつ、音楽をより深められたらいいなと思います。
- ② アンサンブルすることの楽しさや難しさといったことからその曲が生まれた背景などまで、本当に様々なことを教えていただき、音楽の楽しさをより一層学べました。
- ③ アマチュアオーケストラなどに入り、音楽の楽しさを感じ続けられたらいいなと思います。
- ④ 音楽を様々な角度から感じられる機会です。観客として聴くときはもちろん、演奏するときには四方八方から聴こえてくる音に包まれ、とても幸せです。

堀 勇樹 (大2)

楽器歴 14年

- ① 以前在籍していた「鎌倉ジュニアオーケストラ」を卒団してから、早2年が経とうとしています。卒団しても、ヴァイオリンは続けるつもりでしたが、大学の活動で忙しく、練習時間の確保が難しく、公で演奏する機会も得られずにいました。そこへ、以前からお世話になっていたジュニオケの事務局の方から、ゾリステン企画に参加してはどのお誘いをいただきました。お話を聞いてすぐに、「今までやってきた事をこれ以上に活かせる機会はない」と思い、お受けすることにしました。
- ② 全体の音のバランスを重視しつつも、メンバーそれぞれの演奏の個性を尊重して下さっているように感じます。だからとても気持ちよく弾くことができます。
- ③ プロの演奏家にはなれないでしょうが、演奏は続けていくことでしょう。今のバイオリンとは生まれた年が同じなので、生涯を共にすることでしょう。でも自分の棺桶に入れるつもりはありません。私が死んだ後、彼女は他の主人に見初められ、新たな人生を歩むのでしょうから。だから今の内に優しくしてあげたい。
- ④ 空想への入り口。

高橋 康王 (大3)

楽器歴 14年

- ① 第1回目から参加させていただきましたが、今回が最後になると思うので、練習から本番まで貴重な時間を楽しみたいと思います。
- ② 練習がある度に技術の向上はもちろん、曲の解釈に新しい知識が増えていくのでとても楽しいです。
- ③ 楽器のように一生続けられることは中々無いと思うので、これからも出来る限り音楽を続けていきたいです。
- ④ 小さな頃からオーケストラで曲をたくさん弾いてきたし、聴いてきたので、ソロで何か演奏するよりも演奏自体に楽しさを感じることが多いです。きっとコンチェルトとは違う大きさや華やかさがあるからだと思いますが、たくさんの人と一緒に曲を創り上げていけるところが好きです。

鈴木 風香 (高2)

楽器歴 6年

- ① 今回で2回目の参加になるのですが、初めは、練習期間が短くてびっくりしました。ですが、プロの方が隣で弾いてくださることで「あ〜こういう風にここは弾けばいいのか」と今まで考えていなかった新しい感覚をたくさん味わう事が出来ました。なので、今回は感情を出した演奏をしていきたいです！
- ② 今回のチャイコフスキーの第5番は、すごく難しかったです。ですが、横ゾリの先生方は、ただ真面目に演奏をするのではなく、この場面ではどういった弾き方したらいいのかという所をたくさん教えていただきました。
- ③ 将来、音大に行ってバイオリンを本格的に続けていきたいという思いはありません。ですが、バイオリンは続けていきたいと思っています。
- ④ 私は、今までオーケストラを聴く側でした。ですが、オーケストラに入った時、自分が音に飲み込まれていくような身体が震える感覚がありました。なので、私はみんなで1つの演奏を作り上げてお客さんと一緒になって楽しむという所がオーケストラだと思います！

オーボエ

吉野 利英 (高1)

楽器歴 3年

- ① 中学の3年間吹奏楽部でオーボエを吹いてましたが、オーケストラでオーボエを演奏したことがなかったからです。また横浜ゾリスの先生方とも共演したいと思ったからです。
- ② 横浜ゾリスの先生方の指導を通して正しい指使いや出にくい音を出やすくする方法などを知ることができました。また吹奏楽とは違ってオーケストラではオーボエの音がとても目立つので周りの音も聞かなければいけない大変さをも知ることができました。
- ③ 将来は周りから尊敬され、ああいう人になりたいなと思える人になりたいです。
- ④ 心のゆとりを与えてくれるものです。

齊藤 さやか (大1)

楽器歴 6年

- ① 前は年上の参加者がいたためその人について行くといった感じで緊張というよりも楽しんで吹くことができました。今回はとても大曲でソロも多く緊張していますが、悔いのないよう頑張りたいと思います。
- ② レッソンは毎回とても内容が濃くて、新たな奏法や表現法を教わり以前よりも楽器を吹きやすくなったと感じています。また合奏はとてもレベルが高く音楽の難しさを改めて痛感させられました。
- ③ 将来の夢が別にあるのでオーボエは趣味として続けていきたいです。
- ④ 音楽の楽しさを教えてくれるもの。



質問内容

- ① (前回参加者は)前回の演奏会の感想と今回への思いや目標を聞かせてください。(初参加者は)どうしてゾリステン企画に参加しようと思ったのですか?
- ② ゾリステンの先生方の指導を通して何を感じましたか?
- ③ ぼんやりとでもいいから、未来に思い描いていることを教えてください。
- ④ あなたにとって、オーケストラの魅力は何ですか?

ホルン

大石 歩波 (高3) 楽器歴 1年半

- ① オーケストラで交響曲など力強いクラシックを自分も入って演奏することが夢の1つでした。ジュニアだけではできない憧れの曲がプロの方々と協演でき、素晴らしい経験になると思ったので参加しました。
- ② 毎回のレッスンで、ゆっくり丁寧に優しく教えてくださったので苦手な部分が少しずつなくなっていきました。焦らず他の楽器の動きを聞いてみるなど練習するたびに次への目標を見つけることができ、充実した時間でした。
- ③ 進路は音楽関係ではありませんが、このゾリステンでの緊張感などの経験は生かしていきたいです。趣味で音楽を続けていき、プロの方々と演奏できる機会があればまた参加したいです!
- ④ 毎日の中でなくてはならない生きがいのあるもの。プロの公演へ行くことや自分が演奏することがいつも楽しみです。



クラリネット

谷 優太 (中3) 楽器歴 5年

- ① 前回交響曲をやれてすごく楽しかったので今回も参加しました。今回は出来る限りミスが減らして全部吹き切りたいです。
- ② 話が面白い、知識がすごい。毎回すごく楽しいです。
- ③ 将来もクラリネットを吹き続けたいです。
- ④ 迫力と一体感が楽しいです。

宇佐見 萌 (大1) 楽器歴 7年

- ① チャイ5が好きなのと、オケをやりたいかったため。
- ② オケをパートごとにみていただき、細かく指導していただいたのは初めてだったので新鮮でした。いつもとは違った観点から教わることができ、勉強になりました。
- ③ たくさんの人に音楽を聴いていただきたいです。
- ④ 人との繋がり、また、音楽を合わせる楽しさを教えてくれるものです。



コントラバス

竹岡 きなり (高3) 楽器歴 5年

- ① 前回のこの企画の公演を観て、プロの先生方に教わりながら大曲を演奏できるという貴重な経験に魅力を感じ、参加しました。
- ② 綿密なアンサンブルの楽しさ、奥深さを感じました。
- ③ プロのコントラバス奏者になることです。
- ④ 将来の目標です!



トランペット

近藤 花野 (高1) 楽器歴 3年

- ① 友達が何回か参加していて、楽しくていい経験になると教えてもらって興味湧いて参加しました。
- ② 同じ曲を演奏しても音の出し方や、技術、音色、表現などで音楽は全然違ってくるんだということです。
- ③ 演奏者として活躍したいです。
- ④ 唯一、私が夢中になって取り組めることです！



神農 大喜 (大2) 楽器歴 12年

- ① 前回(2年前)は自分の人生の初オーケストラでわかりないことがたくさんあり、自分の実力も含め大変苦労したことが一番の思い出です。また、それを糧に今回は先生のご指導のもとでやりきったと思えるような演奏をしたいと思っています。
- ② 毎週のレッスンのたびに、自分の足りないことや、古典音楽の知識などを学び、どのような音を奏でるべきなのかを教わり大変充実した内容でした。いずれ自分が子供たちを指導する際には先生のような楽しく充実した内容を伝えられるようになりたいと思います。
- ③ ソリストとしてフリーランスで仕事をいただけるようになればなと思っています。
- ④ オーケストラはまだ経験値が全くないので、まだまだ未熟な自分が新しいことを学んで高めていければと思っています。

ファゴット

坪井 祐樹 (大1) 楽器歴 6年

- ① 曲目に惹かれたため。
- ② 自分の練習の甘さを痛感する。
- ③ ファゴットの事をより多くの人に知ってもらおう活動をする。
- ④ いろんな人や音楽との出会いの場。



後藤 遥香 (大1) 楽器歴 7年

- ① 私が初めて KJO の仲間を見たのが、この横浜ジュニアとの協演でした。あの時の感動が忘れられず、私が卒団するこの年に!と思い、参加しました。
- ② とってもユニークな先生で、練習中も笑いが絶えず、毎回本当に楽しい2時間を過ごしています。
- ③ 今までクラシックに興味がなかった人でも心惹かれるような演奏を届けられたらと思います。
- ④ 私にとってオーケストラは、日常に彩りを添えてくれるものです。様々なクラシックを通して学んだ新しい気持ちがたくさんありました。言葉に表せない気持ちや私の言いたかった気持ちを表してくれるものであり、十曲十色で素敵な世界を見せてくれるものです。



トロンボーン

石黒 望 (大2) 楽器歴 8年

- ① 高校一年生の時に初参加させていただいてから、今回およそ4年ぶりの参加となります。今回は、リップスラー及びタンギングの基本的な練習から曲の指導まで理論的にしていただき、本番までにはオーケストラの一部として溶け込む繊細な音を作ることができました。そして、今回、「チャイコフスキー交響曲第5番」ということで、私は前回経験できなかったダイナミックな音色作りに取り組んでいます。勿論、前回の様に基本的な練習は欠かさず、曲についても先生方からの多くのアドバイスをいただきました。このたびは、大学2年生になって久しぶりの参加となりましたが、未熟な高校一年生の時の記憶を思いおこすと、当時も現在もその練習した時間はかけがえのないものだったと思われれます。
- ② トロンボーンをそれなりの期間吹いているつもりでしたが、ゼロから一つずつ分かりやすく説明していただくことで、新たに自分の弱点を発見することができたと思われれます。
- ③ オーケストラや吹奏楽など、どんなジャンルであろうと、この体験を活かして生涯トロンボーンを続けていきたいと思っています。
- ④ 私にとって、オーケストラは、必ず一生のうちに何度も心の中で響くような音楽を残すことができる音楽ジャンルです。

～ 演奏会参加メンバー ～

ジュニア・ユース

ヴァイオリン

中島愛 大西ひまり 南川日佳理
古屋光優 山賀千穂 堀勇樹
伊勢静 鈴木風香 田中ひかり
伊勢巧 高橋康王

チェロ

松前芽依
永田歌歩

コントラバス

竹岡きなり

フルート

松崎健一郎
田名部葉水
富樫利香

クラリネット

谷優太
宇佐見萌

ホルン

大石歩波

オーボエ

吉野利英
齊藤さやか

トロンボーン

後藤遥香
石黒望

トランペット

近藤花野
神農大喜

ファゴット

坪井祐樹

横浜ゾリステン

ヴァイオリン

田島華乃 阿部真也
齋藤麻友子 松谷萌江
渡邊友季子 森田絢子
金子英梨歌

ヴィオラ

山口真 法橋泰子
吉竹千彰 石崎佑子
大竹沙羅佐 深堀理子

チェロ

関口将史
和田理
渡邊ゆかり

コントラバス

早川珠実

フルート

長崎亜星
小津まゆみ
中嶋悠

オーボエ

中山達也
熊澤杏実

クラリネット

木原亜土
安藤絵理

ファゴット

河崎聡
坪谷陸

トランペット

金城和美
原育海

トロンボーン

覚張俊介
武石拓海

ホルン

大出佳子 越取浩一
花房可奈 大平紹美

ティンパニ

池田拓人

チューバ

山下健二

鎌倉ジュニアオーケストラは、
いつでも団員を募集しています!

見学のご予約・お問い合わせは
鎌倉ジュニアオーケストラ事務局 Tel 080-5512-6137 まで!

鎌倉ジュニアオーケストラは、小学校3年生から高校3年生までの80名前後の団員で楽しく活動しています。
音楽が好きなら、楽器を触った経験がなくても、楽譜が読めなくても、トレーナーの先生方が1から教えてくれるので大丈夫!
現在、特にヴァイオリン、クラリネット、ホルン、ファゴットの団員を大募集中!! 興味のある方は、ぜひ一度、見学に来てくださいね♪

